

令和5年度朴斎忌講演会（令和5年5月 23 日）

5月23日（火）に令和5年度朴斎忌講演会を開催しました。今年度は平田真義（ひらた しんぎ）様（昭和45年本校卒）を講師にお迎えし、「戦争といのち」と題してご講演をしていただきました。「戦争は人生を大きく変えてしまうものだが、最近は戦争の話をして他人事のように思う人が多くなってきた」ように感じられ、「過去の犠牲があって、今の平和がある」ことを語り継いでいこうと決意されたそうです。講演の中で「いのちのリレー」について話が及び、「自分の一代前は父母の2人、二代前は父母それぞれの祖父母で4人、十代前になると1,024人、二十代前になると1,048,576人となり、今自分がここにいるのはこの長いリレーで受け継がれてきた『いのち』の結果であり、自分だけのものではなく、与えられてきたものである。」「しかし、戦争というのは理不尽で、このリレーを強制的に断ち切ってしまうことをする。」平田様はこの戦争を回避するためには「周囲に惑わされない冷静な判断力を身に付けることが大切で、そのためにはいろいろな体験を通して、様々な人と接することが重要である。」と生徒に語りかけられ、「そのためにもいろいろなことにチャレンジをすることを勧めます。」と結ばれました。

そして最後に本校の五学規の一つ「人為さざるありて而る後に以て為すあるべし」（人はしてはならないことを決してしないという精神があってこそ、良いと思ったことに力が出て、立派な働きができる、という意味）を紹介され、この内容は戦争を起こさない心構えでもあると生徒に伝えていただきました。



